

## 前川深雪さんをおくる

鳥海光弘(地質学教室)

平成4年3月、前川深雪さんは東京大学を停年退官されます。前川さんは昭和46年に理学部地質学教室図書館に着任され、以来20年間にわたり地質学教室図書館の業務のエキスパートとして働いてこられました。

地質学教室には東京大学理学部創設時より教育研究活動を開始したこともあって、きわめて多くの歴史的な文献や地質図が保存されています。また地質学という分野が生物科学と同じように大変に多義にわたる学問分野なので、書籍や学術誌の種類も文科系の分野から物理学、化学、数学、生物科学などの基礎科学から土木工学、材料工学、岩盤工学、金属工学、などの応用科学にまでおよんでいます。いわばユニバーシティ図書館のミニチュアとなっています。そこでの業務は、したがって書籍や学術雑誌の管理というだけでなく、利用する研究者、学生が全国各地にわたっていて、ユーザーへの対応にも多大の熟練を要するのです。

地質学図書館は、現在理学部2号館と5号館に分散しています。2号館には古い文献が多く保存されています。これは1977年に5号館がつくられて、地質学教室と鉱物学教室が2号館から引越したときに膨大な書籍と文献を保管するためにとられた方策でありました。このために両方の図書館の管理と運営を任されたので、引越し以後の

苦労も大変であった事と推察されます。

地質学図書館の文献の整理は実は前川さんより以前は一般的な図書分類の方法をとってはいませんでした。これにはもちろん当時の状況に応じた理由があったのですが、東大内外の一般の利用が著しく広がる中で、共通の分類基準にしたがった整理利用方法をとらざるを得ない状況になってきた事と、1977年に図書館が引越したこともあって、前川さんと谷さんの多大の尽力でもって、ようやく再分類と整理が行われたのです。現在ではコンピューターによる文献検索も含めて格段に利用し易くなっていますが、これも一重に前川さんの御尽力と感謝しております。

前川さんははっきりした意見を述べる方です。しかしその声は大変に優しい響きを持っていらっしゃる。高くもなく低くもなく、かつ優しいものの言い様なので話しているとあまり気が付かないほどであります。しかし今度の理学部図書館構想の時や予算の都合上あまり書籍を購入できないときなどはその調子で理に合ったきついおしかりを受ける。これはなかなか心地よいものでした。

前川さん、退官された後もお気がるに地質学教室をお訪ねください。心よりお待ちいたしたいと思ひます。ご健康に御留意されてお過ごし下さい、長い間大変にありがとうございました。

